

# 令和7年度 第3回 宮原小学校学校運営協議会議事録

さいたま市立宮原小学校

- 1 日時・場所 [日時] 令和8年2月17日(火) 10:30 ~ 12:30  
[場所] 第1会議室

- 2 出席
- |      |       |                     |
|------|-------|---------------------|
| 副委員長 | 飯島 徹夫 | 宮原公民館長              |
| 委員   | 中山 和義 | 宮原地区自治会連合会副会長       |
|      | 嶋村 茂  | 宮原地区社会福祉協議会会長       |
|      | 清水 浩  | 近隣幼稚園・保育園代表         |
|      | 白石 王恵 | チャレンジスクール教室コーディネーター |
|      | 佐藤 幸枝 | 主任児童委員              |
|      | 市川 牧香 | 宮原小学校PTA会長          |
|      | 井上 雅史 | 宮原小学校校長             |
|      | 長沼 幸男 | 宮原小学校学校地域連携コーディネーター |

- 欠席
- |     |        |                     |
|-----|--------|---------------------|
| 委員長 | 森下 佳代  | 宮原児童センター館長          |
|     | 清水 猛   | 鍛冶自治会長              |
|     | 井上 哲典  | 大宮交通安全協会宮原支部        |
|     | 清水 ヨシ子 | 宮原地区民生委員・児童委員協議会長   |
|     | 青木 洋   | 宮原中学校学校地域連携コーディネーター |

## 3 次第

- (1) 開会
- (2) 学校評価の結果について
- (3) 学校自己評価システムシートについて(評価)
- (4) 熟議

「人とのつながりを実感しながら豊かに生きていくためにできること  
～子どもの発達や心のサポートに向けて～」

○令和8年度の協働活動(案)について

- (5) 令和8年度学校経営方針について

## 4 議事概要

- (1) 学校自己評価システムシートについて

○学びの質の向上に関する取組

【校長】

- ・基礎基本の確実な定着を目指す指導の充実に向けて、アナログとデジタルをバランスよく使うこと、授業の振り返りをしっかりと行うことを重点的に取り組んできた。
- ・自立した学び手を育成することを目指した授業改善に向けては、教師が互いに授業を見合い、成果をまとめるなど、学校全体で研修の充実に努めてきた。

**【委員】**

- ・デジタルとアナログのバランスが大事だと考える。校内での研修の成果を実践に活かしていることが分かってよい。
- ・今後も、デジタルの活用については慎重に検討しながら、アナログや体験の大切さもしっかりとおさえて教育活動を進めてほしい。

○子どもの発達や心のサポートに関する取組

**【校長】**

- ・「心の居場所」のある学校づくりに向けて、道徳教育の推進教員を中心として、教材資料の作成など授業等の充実に努めてきた。
- ・基本的な生活習慣や規範意識の定着に向けては、「三つの基本（あいさつ、靴のかかとそろえ、チャイム着席）」を重点的に取り組んできた。よくできてきてはいるものの、挨拶等、さらに取り組んでいく。

**【委員】**

- ・三つの基本は具体的で分かりやすく、取組も行いやすいと考える。この指導については、ゴールは無いため、繰り返し子どもたちに働きかけてほしい。
- ・いじめ事案も含め、生徒指導に配慮ある指導がされていると感じた。今後もきめ細かい指導を期待する。

○地域とともにある学校づくりに関する取組

**【校長】**

- ・顔の分かる関係をつくる持続的な協働活動の実施に向けて、近隣にお住いの方にも御協力いただきながら環境美化活動に取り組んできた。活動として定着しているため、参加者が増えるよう努めていきたい。
- ・開かれた学校づくりの推進に向けては、学校公開時に学校説明会を行うことで、保護者や地域の方々に情報を発信することができた。内容についても、校長からの説明に加えて、生徒指導担当や給食担当が話す場を設定することで、兆通理解を得ることにつながることができた。

**【委員】**

- ・地域との関わりを大切にしていると感じる。協働活動を具体的に計画し、取り組み始めたことはよいと考える。
- ・協働活動は、学校と地域が児童の育成に係る目標やプランを共有することがベースとなることから、認識をしっかりと共有できるようにしたい。

## ○教育環境の整備に関する取組

### 【校長】

- ・施設や備品の安全管理の徹底について、安全な学校生活に向けた過ごし方を繰り返し指導するとともに、けが等については保護者への連絡など速やかな対応を心掛けてきた。
- ・安心安全で美しい教育環境の整備について、教室内の整理整頓など、子どもたちが清潔で整えられた環境で学ぶことができるよう、一層取り組んでいくとともに、言語環境を整え心理的安全性を高められるようにしていきたい。

### 【委員】

- ・児童のけがや体調不調等にも丁寧な対応がなされていてよい。学校からの適切な連絡で、家庭では安心感をもつことにつながる。
- ・環境整備等の意識を高めるには、教員が整えるべきものと、子どもたちに取り組みせていくことをしっかり分けて考えるとよい。

## ○教職員のキャリア形成に関する取組

### 【校長】

- ・教育実践を通じた指導力の向上に向けた実践を重ね、学校評価における肯定的な回答の割合についても数値が向上した。
- ・働きがいのある学校づくりに向けては、教職員のストレス検査等、日頃の様子に加えて客観的なデータも併せながら、教職員が安心して働くことができる学校経営への取組を行ってきた。

### 【委員】

- ・教職員の研修に対する意識の高さが理解できた。働き方改革とキャリアアップにつながる研修は相反する部分もあるが、引き続き研修に力を入れてほしい。
- ・働き方改革について、地域との協議・連携で解決できそうなものについては、話し合えるようになることが望ましいと考える。

## (2) 熟議

テーマ：「人とのつながりを実感しながら豊かに生きていくためにできること  
～子どもの発達や心のサポートに向けて～」

### 【グループA】

- ・保護者がどのように子どもに接していくかが大事だと考える。子育てに関わるコミュニティが身近にあったり、上の世代に子育ての悩みを相談できたりするなど、コミュニケーションを図れる環境があることで、子どもの発達を支援することができるのではないかと考える。そのためにも、地域のコミュニティに積極的に参加していくとよい。

- ・色々な取組を学校主導で行うのもよいが、やった方がよい、必要だという声が集まった形での取組になることもよいと考える。

#### 【グループB】

- ・不登校傾向がある子について、どこに課題があるのか把握し、行政等の支援があることで前向きになることができると考える。どのようなアプローチがよいか、学校だけでなく、関係機関等も含めて一層考えていく必要がある。

#### 【グループC】

- ・不登校等児童が毎年増えていく中で、人員が増えることも難しい状況において、子どもたちに寄り添う支援・指導を求めていくことには、さすがに無理があるのではないか。自治会等、積極的に活用していただきたい。

#### ○令和8年度の協働活動について

- ・明治6年5月30日の開校し、令和8年度で開校154年目を迎える。引き続き、毎月30日を「宮原小協働活動の日」として、子どもたちと地域との環境美化活動を計画していく。
- ・地域への周知は学校だよりの配付、保護者への周知については、PTAによる連絡アプリでの周知を併せて行うなど、参加者が増えるよう工夫していく。

#### 5 諸連絡

1年間の御礼と次年度委員選出に関することについて連絡をした。

#### 6 閉会

閉会后、給食会食を実施した。